

平成 24 年度
横須賀美術館 事業計画書

平成 24 年（2012 年）10 月

I 美術を通じた交流を促進する

①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

美術館や展覧会の情報を広く周知し、交流拠点として集客につなげるとともに、様々なイベントやPRを実施することで、親しみやすい美術館のイメージを高める。

1 展覧会及び観覧者数（予算時見込み）

展覧会名	会期	観覧者数	備考
正岡子規と美術	4/1-4/15	3,500人	H24年度分
国吉康雄展	4/28-7/8	16,000人	
ストラスブール美術館展	7/21-9/2	20,000人	
女性の情景展	9/15-10/21	18,000人	
朝井閑右衛門展	11/3-12/25	12,000人	
児童生徒造形作品展	1/12-1/28	15,000人	
日本の木のイス展	2/9-3/31	12,000人	H24年度分
企画展のない期間	上記以外	5,500人	
計		102,000人	

2 広報・集客事業

(1) 美術館展覧会等の広報宣伝による集客促進

- ・年6回の企画展ポスターを京浜急行電鉄の駅及び車内窓上へ掲出
- ・展覧会等ポスター、チラシを市内外公共施設、宿泊施設、福祉施設等への送付及び持参による掲出
- ・美術館ホームページを活用した情報発信
- ・広報よこすか、横須賀市公式ツイッターでの情報発信
- ・マスコミへの情報発信

(2) 美術にとらわれないイベントの実施による集客促進・イメージアップ

- ・コンサートの開催
- ・美術館ウェディングの開催

(3) 来館者サービスによる集客促進

- ・年間パスポート、前売券の発行
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

(4) 他の施設・事業との連携による集客促進

- ・観音崎フェスタへの参加
- ・経済部との連携による情報発信

【達成目標】 年間観覧者数 103,000 人

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成 12 年 6 月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などを勘案し、年間観覧者数を 10 万人としています。

今年度の目標は、予算時には 102,000 人を見込んでいましたが、過去 3 年（平成 21 年度～平成 23 年度）の観覧者数の平均が 102,585 人であることから 103,000 人となりました。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
観覧者数	165,961 人	106,520 人	98,738 人	100,033 人	108,985 人
来館者数	386,175 人	246,337 人	224,729 人	231,826 人	224,109 人

(ア) 観覧者数

発券数を根拠とした計算値。一日に複数の展覧会を見た場合も累計しない(企画展、所蔵品展、谷内六郎館を見た場合、1 人と数える)。無料観覧者数を含む。展覧会を見なかった人(例:図書室のみ利用)は含まない。

(イ) 来館者数

本館の 2 か所の出入りに設置しているオートカウンターによる計測値。入っていく人のみを数え、出ていく人は数えない。谷内六郎館に入る人を加算していない(いったん本館で受付をするため)。レストランのみの利用者も加算していない。

【実施目標】 広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。

[目標設定の理由]

- ・横須賀美術館は、企画展・所蔵品展の内容はもちろんのこと、その絶景のロケーションからも一度お越しいただければ、きっとご満足いただけるだけの魅力を持っていると考えています。当館の魅力は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・そのためには、市内外に積極的に情報を発信して広い層に美術館の魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定しました。
- ・数値としては、過去3年（平成21年度～平成23年度）の無料での情報掲載数の平均が182件であることから200件を目標としました。

無料での情報掲載	平成21年度	平成22年度	平成23年度
新聞	10件	40件	46件
美術系雑誌	43件	38件	37件
タウン紙	34件	20件	28件
フリーペーパー		18件	6件
情報誌（地域版）		5件	4件
情報誌（全国版）	21件	18件	19件
WEB	24件	15件	30件
ファッション誌	4件	11件	6件
機関紙	25件	13件	12件
その他		8件	12件
合計	161件	186件	200件

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】 市民との協働

- 1 美術館ボランティア活動の推進
ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。
美術館ボランティアは、美術館活動を支援する「サポートボランティア」と、美術館を盛り上げるためのイベントを自ら企画実施する「プロジェクトボランティア」の2チームの活動を継続しています。
- 2 サポートボランティアによる活動 130 日程度
 - ・所蔵品展ギャラリートークの開催（毎週日曜日）
 - ・ワークショップ事業の補助
 - ・小学校美術館鑑賞会の受け入れ補助
 - ・研修会、会議の開催
- 3 プロジェクトボランティアによるイベントの企画実施 30 日程度
 - ・ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス等来館しやすい時期に美術を通じた誰でも参加できるイベントを3回程度実施します。
- 4 ボランティア活動のPR及び参加者の募集
 - ・美術館ホームページを活用したボランティア活動のPR
 - ・第3期サポートボランティアの募集
 - ・プロジェクトボランティアの継続募集

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数のべ1,400人
(事業ごとに加算、登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなります。
今年度の目標は、過去3年(平成21年度～平成23年度)の参加者数の平均が1,312人であることから1,400人としました。

(市民ボランティア協働事業へののべ参加者数)

	プロジェクトボランティア		サポートボランティア		計
	登録者	一般参加者	登録者	一般参加者	
21年度	115	466	443	254	1,278
22年度	91	580	375	174	1,220
23年度	197	533	434	274	1,438

*プロジェクトボランティア

- ・美術館のイメージアップと美術館の利用を高めるため、自らイベントを企画実施するボランティア。
- ・主な活動は、市民等が参加し楽しめるボランティアイベントの開催。
- ・登録者数 19 名(平成 24 年 3 月末現在)

*サポートボランティア

- ・美術館が主催する活動に共感し、自身の知的欲求を充足しつつ美術館活動をサポートするボランティア。
- ・主な活動は、ギャラリートークの実施。ワークショップや鑑賞会の補助。
- ・登録者数 28 名(平成 24 年 3 月末現在)

【実施目標】

- ・ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
 - ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。
-

[目標設定の理由]

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館の担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

国内外の優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展・・・特定のテーマによる展示とし、年6回開催を予定

i 「アメリカ美術を変えた日本人」 国吉康雄展

4月28日(土)～7月8日(日)

- ・職を求めて渡ったアメリカで美術に目覚め、そこで人気作家となった国吉康雄(1889-1953)。本展では、100点を超す作品でその生涯を振り返ります。

ii ストラスブール美術館展 「世紀末からフランス現代美術へ」

7月21日(土)～9月2日(日)

- ・ストラスブール美術館の名品によって、象徴主義から印象派、モダンアート、現代美術の軌跡を紹介。ピカソ、ゴッガンなどの作品が一堂に介します。

iii 百花繚乱 女性の情景展 「生きて行く私」

9月15日(土)～10月21日(日)

- ・物語や社会、時代の中に生きる女性を、洋画、日本画、写真、女性誌等様々なメディアを通じ約120点で紹介。漫画が読めるコーナーも設置します。

iv 朝井閑右衛門展

11月3日(土)～12月25日(火)

- ・横須賀の田浦に住んだ洋画家の巨匠・朝井閑右衛門(1901-1983)。本展は、朝井の初期から晩年までを油彩、日本画に加え、横須賀市に寄贈された多くの資料も交え「人間・朝井閑右衛門」に迫る本格的回顧展です。

v 児童生徒造形作品展

1月12日(土)～1月28日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護、すべての学校園の子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

vi 日本の木のイス展

2月9日(土)～4月14日(日)

- ・「イス」について、見たり体験したりしながら楽しく考える展覧会。日本のデザイン史に残る名品椅子の展示のほか、神奈川・湘南地域で活躍する現代の家具作家のイスに、実際に座ってみる体験コーナーを設けます。

- (2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展・・・年4回開催を予定
- | | |
|-------------|----------------------|
| i 第1期所蔵品展 | 4月7日(土)～7月8日(日) |
| ii 第2期所蔵品展 | 7月14日(土)～9月23日(日) |
| iii 第3期所蔵品展 | 9月29日(土)～12月16日(日) |
| iv 第4期所蔵品展 | 12月22日(土)～25年4月7日(日) |

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足のために実施。

- (1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 7回
 展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催
 ・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)
- (2) ワークショップの開催 7回
 美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップ事業を開催します。
 ・展覧会に関連したワークショップ 4回
 ・大人向けワークショップ 3回
 ・開催：土日 定員：各20名程度(事前申込制)
- (3) 映画上映会の開催 2回
 優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会(シネマパーティー)を開催します。
 ・開催：年2回(春・秋) 定員：20名程度(事前申込制)
- (4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 15回
 展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催。
 ・企画展毎に3回程度 開催：土日(当日自由参加)
- (5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時
 学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万冊を揃えた図書室の運営し、利用者サービスをはじめ、美術を深く理解する場を提供します。

- (1) 所蔵図書の充実
 ・企画展に関連する図書や子ども向けの絵本、貴重な美術雑誌(古書)など、新たに購入し蔵書の充実を図ります。
 ・寄贈された貴重な美術雑誌など古書を修復します。
- (2) 美術に関する情報提供
 ・来館者が利用できる端末機を設置し、図書室の蔵書を検索できるようデータベースを随時更新します。

【達成目標】 企画展の満足度（補正值）80%

〔目標設定の理由〕

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、年間6回開催している企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安の代表として掲げることとしました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しています。同じ方法の調査を継続的に行っており、過去3年（平成21年度～平成23年度）の平均が77.5%であることから80%と設定しました。

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
企画展満足度	70.5%	76.0%	73.2%	78.7%	80.6%

【実施目標】

- ・ 幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
 - ・ 所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4本開催する。
 - ・ 知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
 - ・ 所蔵図書資料を充実させる。
 - ・ 多くの人が気軽に利用できるよう、図書室の環境を整える。
 - ・ 主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。
-

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を発信し、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6本の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4本開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎となっているのが、日々の調査研究です。その範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、美術の教育普及に関することを含んでいます。

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

【事業計画】

学校との連携

- 1 「アーティストと出会う会」(中学生、高校生) 2回
活躍する現役アーティストを招聘し、こども時代の夢や取り組みなどを紹介することで、中学生が将来への夢や希望を美術の側面から支援する講演会を開催します。
- 2 中学生のための美術鑑賞教室の開催 14回
中学生向けに鑑賞ガイドを用意し、学校外での美術を学ぶ場となる美術鑑賞教室を開催します。
- 3 「美術鑑賞会」の受け入れ(市内全小学校6年生) 47回
市立の全小学校6年生を対象に、ワークシートを用いて美術館における美術鑑賞教育となる鑑賞会を開催します。
- 4 出前授業の実施 随時
学校教育と連携し、美術館職員が学校に出向き、授業の中で美術館を活用した美術教育を実践する出前授業を実施します。
- 5 職業体験の受け入れ 随時
子どもたちが美術館での仕事を体験する職業体験の受け入れを行う。
- 6 学芸員実習の受け入れ 随時

子どもたちへの美術館教育

- 1 ワークショップの開催 10回
子どもたちが美術に親しめるようなワークショップ事業を開催します。
 - ・展覧会関連ワークショップ、子ども向けワークショップ
開催：5月、10月、定員：30～60名程度(事前申込制)
 - ・未就学児ワークショップ
開催：3月 定員：40名程度(事前申込制)
- 2 映画上映会の開催 2回
気軽に映画を楽しめるよう屋外での映画会を開催します。
開催：夏 定員：なし(当日自由参加)
- 3 親子ギャラリーツアーの開催 6回
親子での美術鑑賞の楽しみ方を知ってもらうための学芸員によるギャラリーツアーを開催します。

【達成目標】 中学生以下の年間観覧者数 18,500 人

[目標設定の理由]

- ・子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

今年度の目標は、過去3年(平成21年度～平成23年度)の観覧者数の平均が18,046人であることから18,500人としました。

(中学生以下の観覧者数)

	幼児	小学生	中学生	計
19年度	3,090	11,038	3,048	17,176
20年度	1,586	9,560	2,348	13,494
21年度	1,706	10,981	2,252	14,939
22年度	3,074	10,418	2,941	16,433
23年度	4,041	14,442	4,285	22,768

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
 - ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
 - ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
 - ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
-

[目標設定の理由]

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。

学校教育ではできない、美術館にしかできないことは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

【事業計画】 美術品収集管理保管事業

新たな美術品の収集（寄贈、寄託の受け入れ）を行うとともに、所蔵する美術品約4,500点の管理を行います。

- 1 所蔵作品の管理（作品の貸出及び修復・額装）
- 2 美術品の収集（購入予算は無、寄贈、寄託の受け入れ）
美術品の収集方針・・・近現代の絵画、版画、彫刻とし、次の基準によります。
 - (1) 横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品
 - (2) 横須賀・三浦半島を題材とした作品
 - (3) 「海」を描いた作品
 - (4) 日本の近現代を概観できる作品
 - (5) その他、上記に関連ある国内外の優れた作品
- 3 環境調査の実施（年2回）
- 4 美術品選定評価委員会の開催

【達成目標】（なし）

〔目標設定の理由〕

購入費（基金）が充当されていないため、収集は寄贈に頼っている状況です。

寄贈される作品の質については、専門家による外部委員会である「美術品選定評価委員会」によってすでに保証されていますが、作品の収集は数量によって評価されるべきではありません。

作品の修復、額装等の処置についても、個々の事例に即して対処しているため、やはり数量的な評価に適していません。

作品の貸出は、依頼に応じて行う性格のものであり、また、作品保護の観点からも数量的な評価をすべきではないと考えます。

したがって、この項目では達成目標を設定しません。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

[目標設定の理由]

・ すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響をじゅうぶんに考慮したうえで、可能な範囲で行っています。

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

【事業計画】

- ・受託事業者との定期的なミーティングの実施（運営事業者連絡会議）
- ・防災避難訓練を含む館内スタッフの研修の実施
- ・展示監視日報による課題の把握と情報の共有
- ・館内巡回による清掃及びスタッフ対応等の確認

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

[目標設定の理由]

館内アメニティ満足度については、来館者が気持ちのよい時間を過ごしていることを示す指標であると考えます。21年度から、アンケートのなかに質問事項を加え、「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごすことができた」に対する満足度を指標（総合満足度）としました。

今年度の目標は、過去3年（平成21年度～平成23年度）の満足度の平均である89.2%を上回る90%としました。

スタッフ対応の満足度については、来館者アンケート「スタッフの対応・案内は適切だった」に対する満足度であり、過去3年（平成21年度～平成23年度）の満足度の平均78.5%であることから80%としました。

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
館内アメニティ満足度	未調査	未調査	88.7%	88.5%	90.4%
スタッフ対応の満足度	78.9%	69.6%	79.0%	78.0%	78.5%

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
 - ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
 - ・ 受託事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。
-

〔目標設定の理由〕

横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因として、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物があります。しかし、海のそばに立地していることから、強い風雨にさらされることも多く、また塩害によって老朽化の速度が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続してゆくことが重要となります。

さらに、ご案内をするスタッフの対応いかんによって、美術館に対する印象は大きく左右されます。受付・展示監視スタッフは受託事業者ですが、市職員との緊密な連携を図り、一体となって、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

美術館体験のなかで、買い物や食事をすることも、来館者の大きな楽しみです。やはり民間事業者であるレストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねてゆきます。

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

【事業計画】 福祉活動の展開

- 1 福祉活動講演会の開催 1回
さわれる彫刻や絵画など、誰もが美術に親しめるさまざまな研究や事例を紹介していく講演会を開催します。
- 2 障害者向けワークショップ 1回
障害のある人を対象に、美術を楽しめるワークショップを開催します。
- 3 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」 12回
障害のある子どもたちを対象に、身近にある材料で創作を体験するワークショップを開催します。
- 4 パフォーマンスの実施 1回
誰もが様々な美術表現に親しめるよう、アーティストによるパフォーマンスを開催します。
- 5 託児サービスの実施 1回
1歳～未就学児を対象に、展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向け、託児サービスを実施します。

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数のべ 400 人

〔目標設定の理由〕

- ・過去3年（平成21年度～平成23年度）の参加者数の平均が362人であることから400人としました

（福祉関連事業への参加者数）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
講演会	20	20	27	35	22
ワークショップ	25	19	16	43	22
みんなのアトリエ		115	101	114	111
その他	67	73	250	347	0
計	112	227	394	539	153

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
 - ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
-

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【事業計画】 施設の運営・維持管理

- ・節電に努め、年間使用電力量を削減します。
 - ・業務委託において、廉価で質の高いサービスを提供する事業者に発注します。
-

【達成目標】 美術館全体で年間に使用する電力量を前年比△5%とする。

【目標設定の理由】

美術館は社会教育施設であり、収益をあげるための施設ではありませんが、公の施設として、効率的な運営が求められています。事業の質を担保しつつ、経費を削減するためには、管理部門での効率化を目指すしかありません。平成 23 年に発生した東日本大震災に伴う電力不足以来、社会全体に節電が求められていることもあり、引き続き、年間使用電力量の削減を目標としました。

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
電気使用量 (KWh)	3,473,952	3,004,920	3,049,128	2,946,360	2,525,376

【実施目標】 職員すべてが費用対効果をつねに意識し、効率的な運営を行う。

【目標設定の理由】

サービスの質を低下させずに経費削減を目指すため、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。